

2025 年度 玉川学園中学部 入学試験問題

第 1 回

国 語

- ・ 試験開始までこの問題冊子を開いてはいけません。
- ・ 答えは必ず解答用紙に記入下さい。
- ・ 字数制限のある記述問題の解答では、句読点・記号なども一文字分として数えます。

受験番号	E					
------	---	--	--	--	--	--

氏名	
----	--

一 次の——線部のカタカナを漢字で答えなさい。また、必要があれば、ひらがなで送りがなも付けて答えなさい。

- ① 正しいシセイを保つ。
- ② ホゾン食品を食べる。
- ③ コキュウが浅くなる。
- ④ 文字をカクダイする。
- ⑤ センモンカに任せる。
- ⑥ スコヤカに育つ。
- ⑦ 注文をウケタマワル。
- ⑧ はだ寒いキセツになった。
- ⑨ あの女優はエンギがうまい。
- ⑩ ボウエンキョウで星を見る。

二 次の——線部の読みを、ひらがなで答えなさい。

- ① 弓道部に入る。
- ② 図画工作が好きだ。
- ③ 白羽の矢が立つ。
- ④ 運動会では徒競走がつきものだ。
- ⑤ 友達と約束する。

三 次の熟語と同じ構成の熟語を、ア～オの漢字を使って二組作った時に余る漢字を記号で答えなさい。

- | | | | | | | | | | | | | |
|---|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | 身体 | ハ | ア | 幸 | イ | 急 | ウ | 福 | エ | 行 | オ | 速 |
| ② | 未定 | ハ | ア | 通 | イ | 無 | ウ | 不 | エ | 害 | オ | 過 |
| ③ | 消火 | ハ | ア | 地 | イ | 金 | ウ | 着 | エ | 貯 | オ | 面 |

四 次の五つの語句を、五十音順にのる国語辞典で調べると、どういう順に出ていますか。早いものから順番に記号を並べて答えなさい。

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|
| ① | ア | 武家 | イ | 武者 | ウ | 武士 | エ | 武道 | オ | 武术 |
| ② | ア | 花火 | イ | 花鳥 | ウ | 家族 | エ | 家計 | オ | 花粉 |

〔五〕 次の文から漢字の間違ちがいを一文字探し、ぬき出して正しい漢字に直しなさい。

〈例〉 クラスが団結することを氣待している。

氣 ↓ 期

- ① 早寝、早起きの習慣をつけよう。
- ② 故人の遺思を受けついで事業を展開したい。
- ③ 原本との異動を確かめないと困ったことが起きる。

〔六〕 それぞれの□に漢字を入れると、慣用句やことわざを用いた文になります。①～③に当てはまる漢字を答えなさい。

- ① こんな簡単な仕事は□□前だ。
- ② ふと□に返った。
- ③ 私の友達はみんな犬を飼っている。類は□を呼ぶっていうよね。

〔七〕 次の――線部は、文の成分の何に当たりますか。語群から選び、それぞれ記号で答えなさい（記号は何度使ってもかまいません）。

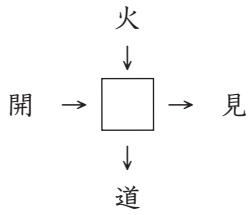
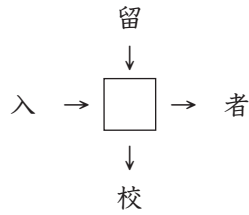
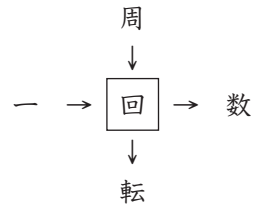
正門を抜けると、登り坂が^①続く。高い木々を左右に見ながら、くねくね曲がった坂道を登り切ると、急に^③視界が開ける。チャペルの^④先には青空が広がる。^⑤そして、鐘^{かね}の音も聞こえてくる。

語群	ア	主語	イ	述語	ウ	修飾語 ^{しゅうしよく}
	エ	接続語	オ	独立語		

八

四つの熟語が出来るように、□に当てはまる漢字を答えなさい。

〈例〉



九

①～⑩の中で——線部の表現が正しく使われていない文をすべて選び、記号で答えなさい。

- ① ふだん笑わない父がくすつと笑った。
- ② 書類にざつと目を通してから話そう。
- ③ 子供の笑顔はまるで天使のようだ。
- ④ 借りたものは必ず元のところにもどすかもしれない。
- ⑤ また失敗して胸をなでおろした。
- ⑥ 精一杯頼んだが、鼻であしらわれた。
- ⑦ 思いがけず火中の栗を拾えてよかった。
- ⑧ 彼は一を聞いて十を知るような人だ。
- ⑨ 近日中にご通知申し上げます。
- ⑩ こちらでゆっくりお休みください。

〔十〕 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

いきなりですが、「聞く」と「聴く」の違いをご存知でしょうか？

NHK放送文化研究所のホームページには「ただ単に「きく」場合は一般に「聞く」を使い、注意深く（身を入れて）、あるいは進んで耳を傾ける場合には「聴く」を使います」と書いてあります。

「a」、「聞く」は声が耳に入ってくることで、「聴く」は声に耳を傾けること。

「聞く」という言葉は日常的な場面で使われます。「さっき聞いたんだけど、また株価が下がったらしいよ」とか「部長って全然聞いてないよね」とか。「伝聞」なんて言葉もありますが、なんとなく言葉が耳に入ってきたという感じがありませんね。

これに対して、「聴く」はもう少し特別な場面で使われます。「あの曲を聴いてると、いろいろ思い出すよ」とか「部長にちゃんと聴いてもらったよ」とかでですね。「傾聴」というと、時間をかけて耳を傾けてもらったニュアンスがあるはずですよ。

受動的なのが「聞く」、能動的なのが「聴く」。

「b」、心理士としての僕なりに定義するならば、「聞く」は語られていることを言葉通りに受け止めること、「聴く」は語られていることの裏にある気持ちに触れること。

そんなふうに整理してもいいかもしれない。

それでは、「聞く」と「聴く」のどちらが難しいと思いますか？

実を言えば、僕はずっと「聴く」のほうが難しいというか、レベルが高いと思っていたんです。

僕が専門にしている臨床心理学では「聴く」という言葉のほうがよく使われます。レジエンド臨床心理学者である河合隼雄も『こころの声を聴く』とか『読む力・聴く力』という本を出しています。

「c」、「聞く」は素人でもできる当たり前のことで、「聴く」こそが専門家の高度な仕事なのだと、僕は思っていました。カウンセラーは語られている言葉の奥底に隠れた思いを聴かねばならぬのだ、と。

① 浅はかでした。

どう考えたって、「聴く」よりも「聞く」のほうが難しい。「なんて？」と思われるかもしれませんが。

でもね、「話を聞いてくれない」とは言うけれど、「話を聴いてくれない」と書く違和感があると思いませんか？「聞けない」ことはよくあるけど、「聴けない」というのはすごくレアな例です（イヤホンが壊れたときくらいですかね）。

つまり、「なんでちゃんとキいてくれないの？」とか「ちょっとは聞いてくれよ！」と言われるとき、求められているのは「聴く」ではなく「聞く」なのです。

そのとき、相手は心の奥底にある気持ちを知ってほしいのではなく、ちゃんと言葉にしているのだから、とりあえずそれだけでも受け取って

ほしいと願っています。

言っていることを真に受けてほしい。それが「ちゃんと聞いて」という訴えの内実です。^{*}

②これが本当に難しい。僕らにはどうしても相手の言うことを真に受けることができないときがあるからです。

たとえば、「愛している」と言われて「この人、遺産狙いなんだろうな」と思うとき、僕らは真意を読み取ろうとして、目の前にある言葉を無視しています。

あるいは、「あなたの言葉に傷ついた」と言われて、すぐさま「でも君にも問題があつてさ」と考え始めるとき、僕らは相手の言葉を一瞬で跳ね返しています。

僕らには聞きたくないときがあり、聞く余裕がないときがある。「聞く」は声が耳に入ってくるからだから簡単そうに見えるけど、僕らはしばしばその耳を塞いでしまうのです。

③「聴く」よりも「聞く」のほうが難しい。

心の奥底に触れるよりも、懸命に訴えられていることをそのまま受けるほうがずっと難しい。

「d」、どうしたら「聞く」ができるのか。これがこの本の問いです。

実を言うと、これまで僕は「聴く」にばかり気をとられて、「聞く」について真剣に考えてきませんでした。

「聞く」は心理士として仕事をするうえであまりに当たり前のことでしたから、たとえば「話の聞き方」を教えてほしいなどと言われると、素人臭い質問だなあとすら思っていたのです（ああ、浅はかだ）。

考えが大きく変わったのは、2020年に朝日新聞で「社会季評」を連載するようになってからです。3カ月に一度、そのときどきの社会について評論を書かねばならなくなったのですが、そういう目で社会を見てもみると、「聞く」の不全ばかりが目につきました。

今もそうかもしれませんが、そのころ社会にはさまざまなイシューがあり、それらについてさまざまな声が上がっていて、深刻な対立の様相を呈していました。

ですから、「対話が大事」と至るところで語られていたわけですが、僕の目から見ると、対話はうまくいっていませんでした。

言葉と言葉は岩石のように、ぶつけあうものになっていました。硬くて、強い言葉が投げつけられ、お互いを傷つけあう。必要だったのは、お互いを理解して、納得のいく結論を出すことなのに、どうにもそれが難しくなっていた。

声が上がると。だけど、聞かれない。

深い思いを汲み取ってもらえないのではなく、「それは嫌だ」と言っているだけなのに、I 通りに受け取ってもらえない。

その結果、社会の亀裂^{きれつ}はどんどん深まっていく。僕が目にしたのは、そういう風景だったのです。

ですから、この時期に僕が書いた評論は、徐々に「聞く」をめぐるものになっていきました。

意識的に「聞く」をテーマにしようと思ったわけじゃありません。心理士として社会に何を言えるかを考えたときに、話はおのずと「聞く」^{＊しゅうれん}に収斂^{しゅうれん}していったのです。

なぜ僕らのⅡは話を聞けないのだろうか。手を替え品を替えながら、同じことを考え続けることになりました。(中略)

僕らはみんな、自分の人生の^⑥当事者^{だいてしや}です。

人生にはさまざまな困難^{くわんなん}が起こり、その中には理不尽^{りふじん}なこともたくさんあります。僕らは当事者として、自分のことをできるかぎり自分で決められるよう、格闘^{かくとう}しています。

そういうときには、誰か^{だれ}に話を聞いてもらえると助かります。それは少なくとも、つながりをもたらしてくれます。僕らを孤立^{こりつ}から引っぱり出してくれる。すると、僕らに考えるちからが戻^{もど}ってきます。

しかし、同時に、僕らは常に当事者であるわけではありません。世界は広いし、世の中には自分と関係のないように思えることがたくさんあります。

ユーラシア大陸の向こう側で戦争が起きていて、マンションの別の階

の一室で悲劇が起きています。僕らは第三者で、手も足も出せないまま、成り行きを見守るしかない。

だけど、話を聞くことはできます。

もしかしたら、うしろめたく感じるかもしれません。当事者が悲惨^{ひさん}な境遇^{きやうぐう}を語っているのに、自分は安全圏^{けん}にいる。

ひょっとしたらおせっかいと思われるかもしれないし、「わかってないくせに」と言われるかもしれない。そんな立ち入った話を聞いているのだろうかと思ってしまう。

だけど、思うのです。おせっかいに案外ひとは助けられます。

思ってもいないところから、つながりの糸が伸びてくる。想像もしていなかったひとから心配^{おしやう}されていたことに気づく。この世界に、友といえるひとがいたことに驚く。

誰かが話を聞いてくれる。それがちぎこまっていた心^{こころ}をゆるませ、心を再起動するためのスペースを作ってくれる。

当事者であるときは話を聞いてもらい、第三者であるときは話を聞いてみる。

立場は交互^{こうぎ}に入れ替わります。

あるときには聞いてもらう側だったけど、別のときには聞く側になる。[＊]「聞いてもらう技術」を使うときもあれば、「聞いてもらう技術」を使っている人を見つけて「なにかあった?」と尋ねるときもある。

「聞く」がそうやってグルグルと循環じゅんかんしているときにのみ、「社会」というものはかろうじて成り立つのではないでしょうか？

部族とか村とか、小さな運命共同体しかなかったときには、全員が当事者でした。共同体がうまくいかなかったら共倒れともだおになってしまいうわけですから。

だけど、都市ができて、世界が広がって、お互いがお互いを知らず、責任を持たない個人たちが登場して初めて、「社会」が生まれてくる。第三者の登場こそが「社会」の発生です。

したがって、「社会」問題に取り組むためには、聞く第三者がいらないといけない。当事者同士がリングの上で血を血で洗う争いをせざるをえず、傷つきが溢あふれかえるときに、リングサイドで第三者が話を聞いてくれる。

そういう時間があるから、心を持ち直して、もう一度リングに戻って対話を続けることができる。

苦しい対話の果てに、どこかで妥協点だきようを見つけるためには、その裏で誰かがわかっていてくれる必要があります。「悔くしいよね」と誰かが言ってくれるから、僕は悔しい気持ちに少しだけ耐えたえられるようになります。

「大丈夫？」

「あまり大丈夫そうには見えないんだけどな、眠ねむれてる？」

「いつから調子悪いの？」

「なにかあった？」

「聞く技術」の本質は、「聞いてもらう技術」を使ってモジモジしている人にその声をかけるところにあります。

「なにかあった？」と声をかけることで、話が始まります。

聞いてもらった人は少し回復し、危機を乗り越こえることができるかもしれません。すると、次はその人が別のモジモジしている誰かに「なにかあった？」と声をかけることができる。

あるとき、声はあなたにかかります。

「なにかあった？」

第三者として誰かの話を聞いていたはずのあなたが当事者としてモジモジしているところを見ている人がいたのです。

⑦ 聞くが循環するとはこういうことです。

「聞く技術」と「聞いてもらう技術」はセットになっていて、グルグルと回っている必要があります。

そうじゃないと、いくら「聞いてもらう技術」を身につけたとしても、話を聞いてくれる他者があなたのことを見つけてくれませんよね。

そして、それこそが、いま僕らの社会が陥おちいっている苦境だと思うのです。

目を凝こらしてまわりを眺ながめてみてください。社会のいたるところでモジモジしている人が見つかるはずですよ。

いや、モジモジどころじゃない。

不安のあまりに暴走したり、痛みのあまりに他者を攻撃こうげきしたりしている人も「聞いてもらう技術」を使っています。そこには聞かれていない長い話があつて、誰かに聞かれることを待っています。

「なにかあつた？」と声をかけ、^⑧かれ彼らの抱かかえている複雑な事情を、時間をかけて聞いてあげてほしい。

白か黒かの極端きょくたんな結論だけではなく、その裏にある灰色の長い話に耳を傾けてほしいのです。

いや、違う。

本当はあなたこそが「聞いてもらう技術」を使っているのでしょう。この本を手を取っていることこそが、その証あかし左です。あなたは「聞く」をめぐって、何か困難を感じていたから、この本を読もうと思ったはずです。

だから、やっぱり聞いてもらう、から始めよう。

自分がちやんと聞いてもらえているときにのみ、僕は人の話を聞くことができます。聞いてもらわずに聞くことはできない。

必要なのは体をモジモジとさせて、「ちょっと聞いて」と言うことです。誰かに話を聞いてもらってください。

いや、それじゃダメなのかもしれない。

「ちょっと聞いて」と言うためには、まわりに「なにかあつた？」と

言ってくれそうな人がいなくてはいけない。希望がないときに、僕は助けを求めることができないのだから。

だとするならば、必要なのはまず「聞く」かもしれない。(中略)

「聞く」と「聞いてもらう」がグルグル回るために、「聞く」と「聞いてもらう」のどちらを最初に動かし始めたらいいのかわからず、僕はいま堂々巡りどうどうめぐりをしています。

ここがこの本の終着点なのでしょう。

どっちでもいいはず。

あなたに可能なほうから始めるしかない。

誰かの話を聞いてもいいし、誰かに話を聞いてもらってもいい。

どちらから始めても、「聞く」はきっとグルグルと回りはじめるはずだから。

「聞けない」と「聞いてもらえない」の悪循環を、「聞く」と「聞いてもらう」の循環へ。

そのための最初の一滴いってきをこの社会は必要としています。その一助となればと思ってこの本は作られました。

ですから、あとは読者であるあなたに託たくして、この本を終わろうと思います。

聞くことのちからを信じて。

(『聞く技術 聞いてもらう技術』東畑開人〈筑摩書房〉による)

〈注〉

* 臨床心理学……………心に問題を抱える人に対して、その原因を探り、回復を支援するための知識や技法を学ぶ学問。
心理士はその専門家。

* 内実……………内面の事実。本当のところ。

* 不全……………不完全。

* イシュー……………議論されるべきこと。

* 様相を呈する……………ありさま、状態を示す。

* 収斂……………縮むこと。縮めること。

* 「聞いてもらう技術」

……筆者が述べる「聞いてもらう技術」は、「うまくしゃべる技術」ではない。強みではなく、弱み、情けないところを分かってもらうための技術。心配される技術のことを言う。

* 証左……………証拠。

(1) 「a」も「d」に当てはまる言葉の組み合わせのうちで、正しいものを一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|------|---|-----|
| ア | a | 要するに | b | もしくは | c | なおさら | d | でも |
| イ | a | そして | b | ですので | c | さらに | d | なぜ |
| ウ | a | つまり | b | あるいは | c | ですから | d | ならば |
| エ | a | だから | b | それとも | c | すなわち | d | もしも |
| オ | a | しかし | b | もちろん | c | また | d | では |

(2) ———線部①「浅はかでした」とありますが、筆者がそう感じた理由を次のようにまとめた時、AもDに入る言葉を、それぞれBの文字数にしたがって文中からぬき出しなさい。(B には同じ言葉が入ります。)

筆者は、相手が語っている A (二文字) の奥に隠れた思いを知ることが大切であり、B (二文字) ことよりも C (二文字) ことの方が難しいと思っていた。しかし、話をしている相手は言っていることをそのまま受け取ってはいいのであって、D (一文字) の奥底にある気持ちを知ってほしいわけではないため、本当は B ことの方が難しいと気づいたから。

(3) なぜ「聞く」ことは簡単そうに見えてしまうのですか。二十文字以上三十文字以内で分かりやすく答えなさい。

(4) — 線部②「これ」とは何を指しますか。文中から十五文字でぬき出なさい。

(5) — 線部③なぜ「聞く」よりも「聞く」ほうが難しい」のですか。二十文字以上三十文字以内で答えなさい。

(6) — 線部④のように「対話」がうまくいっていない時、その苦しさを心を持ち直して対話を続けるためには、どのような存在が必要であると筆者は考えていますか。文中から五文字でぬき出なさい。

(7) — 線部⑤「それが難しくなっていた」のはなぜですか。当てはまるものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 岩石のような言葉の奥にあるものを考えようとしなかったから。
イ 上手に対話をする技術を持っている人がいなかったから。
ウ 相手の言うことをしっかりと受け取っていなかったから。
エ 深い思いを汲み取ろうとしていなかったから。
オ 強い言葉で傷ついて立ち直れない人が多かったから。

(8) 本文の

、

 に入る漢字二文字をそれぞれ文中からぬき出なさい。

(9) — 線部⑥「当事者」とありますが、自分が当事者ではない時に相手のためにできることは何だと筆者は考えていますか。十文字以内で答えなさい。

(10) (9)で答えたことをしてもらおうと新たな発見や変化が生まれます。筆者は、心にどのようなことが生じると考えていますか。三十五文字以上四十五文字以内で答えなさい。

(11) — 線部⑦「聞くが循環する」とありますが、その循環の流れの中にあるものとして最もふさわしくないものを選び、記号で答えなさい。

ア 「ちょっと聞いて」と誰かに言うてみること。

イ 話を聞いてもらいたくてモジモジしている人を見つけること。

ウ 話を聞いてもらって回復したら、他の誰かに声をかけること。

エ 第三者の役割をした後は、他者に自分のことは話さないこと。

オ 「なにかあった?」と声をかけ、話を始めること。

(12) — 線部⑧の「複雑な事情」と同じ意味を表している言葉を、文中から二十五文字以上三十五文字以内で見つけ、その最初と最後の三文字をぬき出さない。

(13) 筆者は、「聞く」と「聞いてもらう」のどちらから始めるか考えていますが、なぜ迷っているのかを次のようにまとめました。次の
A 〽 D に入る言葉を、それぞれの文字数にしたがって文中からぬき出さない。(B には同じ言葉が入ります。)

自分がちゃんと A (三文字) もらえる時にのみ、人の話を
B (二文字) ことができる。だから誰かに「ちょっと聞いて」と
言うことが必要だ。だが、それを言うためには、声をかけてく
れそうな人も必要になる。 C (二文字) がない時に自分から
D (二文字) を求めることはできない。そう考えると、 B こと
ができる人が必要になるとも考えるから。

(14) 本文の内容にふさわしいものをすべて選び、記号で答えなさい。

ア 自分で言葉の裏にあることを考えなければいけないため、「聴く」は、受動的である。

イ 社会が話を聞けておらず、亀裂が深まっていると筆者は感じている。

ウ 臨床心理士の筆者にとっては、実は「聞く」よりも「聴く」のほうが難しい。

エ 話を聞いてもらえると、孤立から救ってもらえ、考える力が戻ってくる。

オ 当事者ではないことに立ち入ると、おせっかいだと思われることにうしろめたさを感じてしまうことになる。

カ 第三者としても話を聞くことで、つながりを持ち、人に心配されていたと相手が気づくことがある。

キ 当事者と第三者は時に入れ替わるものであり、「聞く技術」と「聞いてもらう技術」はセットになっている。

ク 「聞く」と「聞いてもらう」、どちらから始めるかによって「聞く」の回り方に影響がある。